

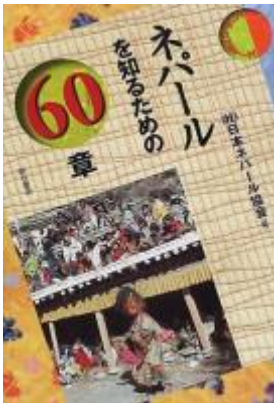
## [新刊]現代ネパールを知るための 60 章

現代ネパールの主要分野につき、それぞれの専門家が新資料に基づき記述した本が出版された。全体の構成は以下の通り。

日本ネパール協会編『現代ネパールを知るための 60 章』明石書店, 2000 円

- I ネパール概観
- II 現代政治の激動
- III 経済の変化と海外労働
- IV 開発・農業・インフラ
- V 保健医療
- VI 教育
- VII ジェンダー, 社会的包摂
- VIII 時代への対応:少数民族, 宗教
- IX 生活の場, 文化からの対応
- X 伝統と信仰

ネパール地図(州名と郡名)／年表／参考文献



谷川昌幸(C)

2020/06/10 at 14:45

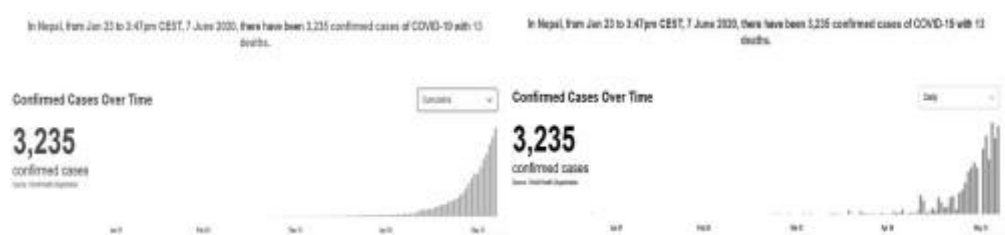
カテゴリー: [ネパール](#)

Tagged with [資料](#)

## コロナ危機深刻化のネパール

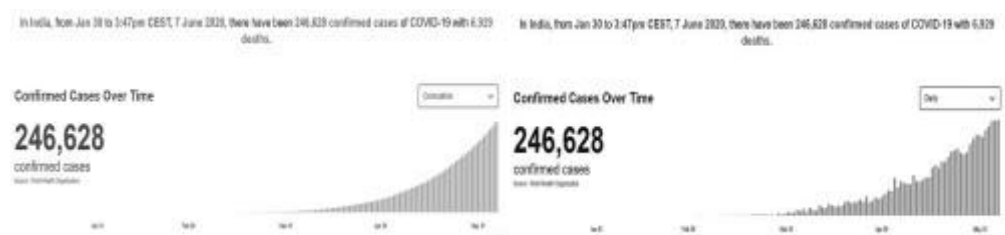
ネパールはいま、コロナ(コビド19)感染拡大と、ロックダウン(封鎖)長期化による生活苦という二重の危機に直面している。

ネパールのコロナ感染は、全国対象の厳しいロックダウンが3月24日に発令され、現在も継承されているにもかかわらず、拡大の一方だ。WHO 統計によれば、6月7日現在、累計で感染者 3,235 人、死者 13 人。



#### ■ネパールのコロナ感染者累計／日毎感染者数 (WHO)

このネパールの状況は、国境を接する隣国インドの現状と当然、連動している。インドでもコロナ感染拡大は続き、6月7日現在、累計感染者 246,628 人、死者 6,929 人に達している。危機的状況だ。



#### ■インドのコロナ感染者累計／日毎感染者数 (WHO)

このような状況を見ると、ネパールにとって全土ロックダウンはやむを得ない緊急措置といえるが、それが長期化すると、人々の生活に深刻な影響を及ぼす。仕事はなくなり、学校は閉鎖、病気になっても病院は手いっぱい診てもらえない。生活そのものが危なくなり始めているのだ。

特に深刻なのが、出稼ぎ労働者、日雇い労働者、零細商工業者など、経済基盤の弱い人々。ロックダウンが始まると、彼らはたちまち仕事を失い(コロナ失業)、生活苦に陥ってしまった。

地方も大変だ。カトマンズなど都市部で働いていた多くの人々が、仕事を失い、徒歩など四苦八苦して、村へと帰っていった。インドから、そして湾岸諸国など海外からも、失業した出稼ぎの人々が、何とか国境を越え、続々と村に帰ってくる。村に彼らを受け入れる余力はあるのだろうか？ 出稼ぎ送金なしで村はやっていけるのだろうか？ いや、そもそもネパール国家経済は、国外出稼ぎ送金激減でも、やっていけるのだろうか？

ネパール政府はむろん、ロックダウンによる失業を救済するための対策は考えている。中央政府は困窮家族に食料など支援物資を配布しているし、カトマンズ市も困窮失業者に週2回、公共事業の仕事を割り振り、経済的支援をしている。が、これらの支援事業は焼け石に水、拡大一方の困窮家族の救済には到底足りていない。労働問題専門家のガネシュ・グルン氏(国家計画委員会元委員)は、こう警告している。

「政府は、何ら対策も立てずに、ロックダウンを延長した。これが続けば、COVID-19 よりも飢えで死ぬ人の方が多くなるだろう。\*3」

このような状態でロックダウンが続き、収入が減り生活が苦しくなってくると、店を開けるなど、あちこちでロックダウン無視が増えてきた。商工会議所、私学連盟などもロックダウン緩和の要望を出した。ロックダウン継続は、このままでは困難な状況になってきたのである。

これに対し、政府は、「公衆衛生非常事態」宣言を準備している。これが発令されると、政府は、民間の施設、人員、組織(NGO,INGOを含む)をコロナ対策に動員することが出来る。根拠は、公衆衛生法、感染症法など。強権的とも見える政府への強力な授権措置である。

その一方、政府は、ロックダウンの具体的な緩和策も検討している。I・ポクレル副首相を長とする「コロナ危機対策センター」が準備しているのは、ロックダウンを6段階で緩和していき、70日以内に完全解除する案。生活、健康、教育、経済など、それぞれについて必要性が高く、感染拡大リスクの低い部分から順次規制を解除していく計画であり、それ自体は現実的で合理的なものといえよう。

しかしながら、難しいのは、コロナ感染抑え込みと行動規制緩和が目論見通り両立するか、という問題。上掲のコロナ感染推移図を見ると、ネパールは、インドと同様、まだ感染拡大期にあり、ここで人々の行動規制を緩和することには大きな危険が伴うであろう。

他方、ロックダウン長期化が、ネパール社会全体に深刻な打撃をもたらすこともまた確かである。どうすればよいのか？ 日本などより、はるかに難しく困難な状況に、ネパールは置かれていると見ざるをえないであろう。

\*1 Aditi Aryal, “Thousands of Nepalis without food or shelter await entrance at the Karnali border,” Kathmandu Post, May 26, 2020

\*2 “Feed the hungry”, Editorial, Kathmandu Post, June 5, 2020

\*3 Anup Ojha, “Thousands of people are struggling under lockdown but government has offered no real solution,” Kathmandu Post, June 3, 2020

\*4 Tika R Pradhan, “Government is considering plans to ease the lockdown but there’s no decision yet,” Kathmandu Post, June 6, 2020

\*5 “Nepal’s Covid-19 tally reaches 3,448 with 213 new cases on Sunday,” Kathmandu Post, June 7, 2020

\*6 Binod Ghimire, “Private schools to lobby government to resume classes next month,” Kathmandu Post, June 7, 2020

\*7 Makar Shrestha, “Lockdown forces a family into destitution,” Kathmandu Post, June 7, 2020

\*8 KASHI KAFLE/MARIE-CHARLOTTE BUISSON, “Agriculture: Can it provide relief to returnee migrants and vulnerable populations?,” Himalayan Times, June 03, 2020

- \*8 RAM KUMAR KAMAT, "Health ministry pitches for declaring health emergency," Himalayan Times, June 06, 2020
- \*9 "KMC set to launch 'Cash for Work' scheme," Himalayan Times, June 06, 2020
- \*10 "UNLOCKDOWN: The lockdown has outlived its usefulness, it is time to get a move on," Editorial, Nepali Times, June 3, 2020
- \*11 Nasana Bajracharya, "Nepal lockdown continues leaving scores hungry. But, there are a few who feed them," english.onlinekhabar.com, May 16th, 2020
- \*12 "India Coronavirus Map and Case Count, New York Times, June 7, 2020

谷川昌幸(C)

2020/06/09 at 09:23

カテゴリー: [インド](#), [ネパール](#), [社会](#), [経済](#), [健康](#)

Tagged with [コロナ](#), [ロックダウン](#), [Corona](#), [Covid-19](#), [出稼ぎ](#), [失業](#), [感染症](#)

## 入管ハンスト死から1年:強制治療に向かうのか? (9)

[参考資料]

- \*1 出入国在留管理庁「[大村入国管理センター被收容者死亡事案に関する調査報告書](#)」2019年10月
- \*2 出入国在留管理庁「[大村入国管理センター被收容者死亡事案に関する調査結果\(概要\)](#)」
- \*3 入国管理局長「拒食中の被收容者への対応について」(通達), 2001年11月2日
- \*4 入国管理局「[退去強制業務について](#)」平成30年12月
- \*5 出入国在留管理庁「[収容・仮放免に関する現状](#)」令和元年11月25日
- \*6 出入国在留管理庁「[送還忌避者の実態について](#)」2020/03/27
- \*7 「[仮放免に関する主な通達・指示](#)」難民支援協会, 2019年11月
- \*8 「[法務大臣閣議後記者会見の概要\[ナイジェリア人男性の死亡に関する質疑について\]](#)」令和元年7月2日
- \*9 宮崎岳志「東京入国管理局に收容されている外国人多数がハンガーストライキを行っているとの報道に関する質問主意書」平成29年5月16日提出, 質問第318
- \*10 「衆議院議員宮崎岳志君提出 東京入国管理局に收容されている外国人多数がハンガーストライキを行っているとの報道に関する質問に対する答弁書」内閣衆質193第318号, 平成29年5月26日
- \*11 福岡難民弁護団「[大村入国管理センターでのナイジェリア人の死亡事故についての声明](#)」2019/06/27
- \*12 九州弁護士会連合会「[大村入管センターにおけるナイジェリア人死亡事案に関する調査報告書](#)」

[に対する理事長声明](#)」2019/10/29

\*13 [東京弁護士会「外国人の収容に係る運用を抜本的に改善し、不必要な収容を直ちにやめることを求める会長声明](#)」2019/07/01

\*14 [日本弁護士連合会「大村入国管理センターにおける長期収容に関する人権救済申立事件\(勧告\)」](#)2019/11/25

\*15 「[緊急ステートメントー飢餓死したナイジェリア人男性についてー](#)」FREEUSHIKU, 2019/10/03

\*16 [クルドを知る会, 日本クルド文化協会, 日本クルド文化協会クルド人難民Mさんを支援する会「大村入管ナイジェリア人飢餓死事件の調査発表を受けての共同声明」](#)2019/10/07

\*17 [関東弁護士会連合会「入国管理局による外国人収容問題に関する意見書」](#)2019/01/15

\*18 「[患者の権利に関するWMAリスボン宣言](#)」

\*19 [WMA Declaration of Malta on Hunger Strikers](#), Medical Assembly, 2017

\*20 Ian Miller, [A History of Force Feeding: Hunger Strikes, Prisons and Medical Ethics, 1909–1974](#), Palgrave Macmillan, 2016

\*21 Mary A Kenny, Derrick M Silove and Zachary Steel, “[Legal and ethical implications of medically enforced feeding of detained asylum seekers on hunger strike](#),” The Medical journal of Australia 180(5), April 2004

\*22 Hernán Reyes, “[Medical and Ethical Aspects of Hunger Strikes in Custody and the Issue of Torture](#),” Research in Legal Medicine, Vol 19, 1998.

\*23 「[サニーさんの死なぜ 大村入管のナイジェリア人 収容3年7ヵ月](#)」西日本新聞, 2019/07/18

\*24 「[柚之原牧師「現在の制度に無理がある」大村入国管理センターの長期収容問題](#)」長崎新聞, 2019/9/29

\*25 「[仮放免求めハンスト相次ぐ 大村入国管理センターの長期収容問題](#)」長崎新聞, 2019/9/29

\*26 「[ハンストのナイジェリア人男性が飢餓死するまで 調査報告書を読んだ医師が解説](#)」

dailyshincho, 2019/10/08

\*27 “[Nigerian on hunger strike dies in Japanese immigration centre](#),” guardian, 2019/10/02

\*28 レジス・アルノー「[男性が不慮の死「外国人収容所」悪化する惨状 今もハンガーストライキが行われている](#)」東洋経済, 2019/08/06

\*29 「[収容外国人ハンストで死亡 入管施設で初、報告書公表](#)」nikkei, 2019/10/01

\*30 「[法務省に入国拒否され長期収容の27人がハンスト 長崎では死者も](#)」newsweekjapan, 2019/06/26 日

\*31 「[長崎に収容のナイジェリア人「飢餓死」報告書 入管ハンスト初の死者](#)」東京新聞, 2019/10/02

\*32 「[入管施設での外国人死亡、ハンストでの餓死だった。入管庁「対応問題なし」](#)」朝日新聞デジタル, 2019/10/01

\*33 「[入管施設で餓死 人権軽視ひずみあらわに](#)」信毎・社説, 2019/10/03

- \*34 野村昌二「[体重 71 キロが 47 キロに...入管収容者の餓死 外国人に人権ないのか?](#)」AERA, 2019/11/12
- \*35 大橋毅「[大村入国管理センター被収容者死亡事案に関する調査報告書](#)」の検討」, 2019/12/28
- \*36 [難民支援協会 HP](#)
- \*37 二村伸「[急増する長期収容](#)」NHK 開設室, 2019/08/21
- \*38 望月優大「[追い込まれる長期収容外国人](#)」2018/11/05, gendai,simedia.jp
- \*39 『[みんなで裸を見たと言われた](#)』...入管収容女性が手紙で訴え」毎日新聞 HP, 2020/05/18
- \*40 「[2週間だけ仮放免](#)」繰り返される外国人長期収容 「一瞬息させ、水に沈めるようだ」毎日新聞, 2019/11/12
- \*41 織田朝日「[入管施設でハンストを続ける被収容者を苦しめる「2 週間のみ」の解放](#)」ハーバー・ビジネス・オンライン, 2019/11/01
- \*42「[衝撃の内部映像、収容者“暴行”入管施設で何が?](#)」TBS news23, 2019/12/24
- \*43 アムネスティ「[入管施設で長期収容に抗議のハンスト 198 人](#)」2019/10/ 08
- \*44 西田昌矢「[入管収容者がハンストで半減? 死亡例受け仮放免増加、出所後も困窮](#)」西日本新聞, 2020/4/6
- \*45 「[収容外国人の「ハンスト」拡大=仮放免求め、死者も一入管庁調査](#)」jiji.com, 2019/10/01
- \*46 「[入管は自分たちを殺したいのかな?](#)」入管収容所で抗議のハンストが拡大」ハーバービジネスオンライン, 2019/08/07
- \*47 「[入管センター「外国人ハンスト」騒動、人権派新聞各紙がほとんど触れない事実](#)」週刊新潮, 2019/08/15・22 日号
- \*48 「[入管施設で長期収容に抗議のハンスト 198 人](#)」アムネスティ, 2019/10
- \*49 志葉玲「[法務省は違法な収容をやめて一難民や弁護士らが会見、衰弱したハンスト参加者らが再収容の危機](#)」Yahoo ニュース, 2019/08/13
- \*50 志葉玲「[救急車を二度追い返した! 東京入管の非道、医師法や法務省令に違反の指摘~手遅れで死亡した事例も](#)」Yahoo ニュース, 2019/03/14
- \*51 鬼室黎「[絶食ハンストした2人、入管が再収容 仮放免から2週間](#)」朝日新聞デジタル, 2019/07/24
- \*52 鬼室黎「[入管にハンスト抗議、イラン人仮放免 体重25キロ減も](#)」朝日新聞デジタル, 2019/07/10
- \*53 「[牛久入管 100人ハンスト 5月以降拡大、長期拘束に抗議](#)」東京新聞, 2019/07/25
- \*54 「[「死ぬか出るか」入管ハンストの男性 2 人、会見で語った心境](#)」-CAST ニュース, 2019/08/13
- \*55 「[不法滞在外国人、ハンスト続出で入管苦慮...約4割は元刑事被告人](#)」産経新聞, 2019/09/30
- \*56 樫田秀樹「[人権非常事態 死に追いやられる難民申請者](#)」, 『世界』2019 年 12 月

- \*57 榎田秀樹「[長期収容、自殺未遂、餓死...問題続出の背景に何がある？18年勤めた元職員が語る「入管」の闇](#)」週プレ NEWS, 2020/01/13
- \*58 西田昌矢「[入管収容者がハンストで半減？ 死亡例受け仮放免増加、出所後も困窮](#)」西日本新聞, 2020/04/06
- \*59 山田徹也「[不法入国者が収容される現場の「壮絶な実態」 収容期間は長い人で4年超、医療面での問題も](#)」東洋経済, 2020/01/18 5:00
- \*60 「[民主主義とは何かー5日間、計105時間に及ぶハンガーストライキで元山仁士郎さんが訴えたかったこと](#)」琉球新報 2019年1月21日
- \*61 「[元山さんのハンストに共感、県内外から応援続々 辺野古投票実現へ署名も](#)」沖縄タイムス, 2019/01/17
- \*62 「[沖縄県民投票めぐりハンストを中止 医師の指摘で](#)」朝日デジタル, 2019/01/19
- \*63 「[「県民投票の会」元山氏のハンスト、ドクターストップ 105時間で終了](#)」沖縄タイムス, 2019/01/19
- \*64 「[沖縄、不屈の歴史 ハンストは権力への意思表示](#)」毎日新聞, 2019/01/19
- \*65 辰濃哲郎「[沖縄の世論を動かした若者たちの断固たる行動 分断と歴史、葛藤の島でもがく若者たち\(3\)](#)」東洋経済 ONLINE, 2019/02/10
- \*66 三上智恵「[「県民投票潰し」とハンガーストライキ](#)」マガジン 9, 2019/01/23
- \*67 「[宜野湾市役所前テントについて](#)」宜野湾市ホームページ
- \*68 「[「ハンストはテロと同質」「さっさと死ね」秘書ツイート 衆院議員が謝罪](#)」沖縄タイムス, 2019/01/26
- \*69 「[高須克弥、橋下徹、ネトウヨ、安倍応援団がバカ丸出しのハンスト叩き！ 元山氏、ウーマン村本が完全論破](#)」リテラ, 2019/01/22
- \*70 美浦克教「[沖縄県民投票と日本本土～元山仁士郎さんの105時間ハンストに思うこと](#)」ニュース・ワーカー2, 2019/01/20
- \*71 中村尚樹「[琉球弧に見る非暴力抵抗運動～奄美と沖縄の祖国復帰闘争史～](#)」

谷川昌幸(C)

2020/06/03 at 09:50

カテゴリー: [社会](#), [健康](#), [労働](#), [外交](#), [政治](#), [人権](#)

Tagged with [ハンスト](#), [移民](#), [難民](#), [入管](#), [医学倫理](#), [強制栄養](#), [強制治療](#)

## [入管ハンスト死から1年:強制治療に向かうのか？ \(8\)](#)

## 9. 強制治療・強制栄養の残虐非人道性

日本政府は、「調査報告書」でも明らかなように、入管施設収容のハンスト者(拒食者)に対し強制治療・強制栄養をすることを認めている。

しかしながら、「リスボン宣言」や「マルタ宣言」をみれば明らかなように、それらは極めて残虐で非人道的であり、とうてい許容されるものではない。

このことは、古くから欧米で繰り返されてきた強制治療・強制栄養の多くの記録を見ても明らかである。以下参照。

- ・[ゴビンダ医師のハンスト闘争\(21\)](#)
- ・[ゴビンダ医師のハンスト闘争\(22\)](#)
- ・[ゴビンダ医師のハンスト闘争\(23\)](#)
- ・[ゴビンダ医師のハンスト闘争\(24\)](#)
- ・[ゴビンダ医師のハンスト闘争\(25\)](#)

以上の多くの事例から明らかなように、入管施設被収容者に強制治療・強制栄養を実施し、力づくでハンスト(拒食)を断念させようとするようなことは、なすべきではない。残虐、非人道的であるばかりか、それらを強行しても成功の見込みはない。

したがって、サニーさんに対し強制治療・強制栄養を実施しなかったこと、それをもって出先機関たる大村センターの責任を問うべきでもない。大村センターの責任は、仮放免など他の採りうる方法によりハンスト死を防止するための努力を十分に尽くさなかったことにある。



■ 奴隷用強制摂食器具([National Museum of Denmark](#)) / フォアグラ強制給餌([Stop Force-feeding](#))

## 10 見直されるべき入国管理政策

大村センターでハニーさんをハンストに追い込み、死に至らしめたのは、日本政府の入国管理政策そのものである。

外国人労働者を、尊重されるべき人格をもった「人間」としてではなく、安上がりで使い勝手の良い「労働力」としてのみ受け入れ、日本側の都合で不要となれば、一方的に送り返そうとする。もし在留資格が切れ、特別在留資格も得られず強制退去命令を受け収容施設に入れられてしまうと、仮放免はあるにせよ、原則として出国まで「無期限」で拘束される。



また、入管施設被收容者が難民申請をしても、難民認定は極めて厳しく、やはり長期の「無期限」収容ということになってしまう。

外国人労働者や移民・難民の扱いは、どの国においても難しい課題だが、日本の場合は、とりわけ問題が多い。ただ、はっきりしているのは、このままでは「無期限」収容への抗議ハンストはなくなり、しかもそれを断念させるための強制治療・強制栄養はあまりにも残虐・非人道的なため実施は実際には困難だということである。

入管施設でのハンスト問題は、外国人労働者あるいは移民・難民の処遇を根本的に改める以外に、解決されることはないだろう。



■強制摂食反対ポスター/ICE 強制摂食抗議デモ(NYT, 2019/01/31)

谷川昌幸(C)

2020/06/02 at 08:51

カテゴリー: [社会](#), [健康](#), [政治](#), [人権](#)

Tagged with [ハンスト](#), [移民](#), [難民](#), [入管](#), [医学倫理](#), [強制摂食](#), [強制治療](#)

## 入管ハンスト死から1年:強制治療に向かうのか？ (7)

### 8. 入管庁のハンスト死防止策提言

入管庁「調査報告書\*1」がハンスト死防止のため提言しているのは、もう少し具体的にいうと、つぎのような方策である。

- (1)説得、カウンセリングの強化。精神疾患が疑われる場合は、精神科受診(p13)。
- (2)「拒食や治療拒否により……危険が生じている場合には、……強制的治療を行うことが可能となるよう体制を整備」(p14)。
- (3)強制治療実施に不可欠の常勤医師の確保(p14-15)。

(4)「強制的治療の体制を確保できた収容施設を拒食対応拠点と定め、……時機を失することなく当該被収容者を当該拠点に移収して処遇する」(p15)。

このように「調査報告書」は、強制治療・強制栄養の実施をハンスト死防止策として提言する一方、送還や仮放免についても、検討を求めている。

しかし、送還については、促進のための方策の検討が必要と述べているにすぎない。

また、仮放免については、弾力的な運用の検討を提言しているが、ハンスト(拒食)を理由とする場合には、極めて消極的である。

・「拒食による健康状態の悪化は、拒食を中止して摂食を再開したり点滴治療を受けることなどにより解消されるべきものであり、拒食者の健康状態の悪化を理由として仮放免を行うことについては慎重な検討を要する」(p15-16)。

・「(拒食で生命が危険になり)治療・回復を図るためには一時的に収容を解いて治療に専念させることが不可欠かつ適切であると考えられる場合には仮放免を検討する必要があるところ、こうした仮放免は飽くまでも治療や健康状態の回復を目的とし、この目的に必要な限度で行うべきものである。」(p16)。

・「拒食による健康状態の悪化は、拒食の中止又は収容施設内においても可能な点滴等により改善される性質のものであり、拒食者の健康状態の回復を図るために仮放免が不可欠ということはなく、このような状態における仮放免は、仮放免許可を得ることを目的とした他の被収容者の拒食を誘発するおそれがあることに鑑みると、一般に、拒食により健康状態が悪化したものを仮放免の対象とすること自体、極めて慎重でなければならない」(p13)。

このように見てくれば、「調査報告書」が、送還困難なハンスト者(拒食者)が危険な状態になったときは、(1)医師の判断に基づき強制治療・強制栄養を実施するか、あるいは(2)健康回復のため仮釈放し、健康回復後速やかに再収容する、という立場をとっていることは明らかである。



■収監サフラジェットへの強制摂食(英紙 1913 年 5 月 24 日)

\*1 出入国在留管理庁「[大村入国管理センター被収容者死亡事案に関する調査報告書](#)」2019 年 10 月

谷川昌幸(C)

2020/06/01 at 15:23

カテゴリー: [社会](#), [健康](#), [政治](#), [人権](#)

Tagged with [ハンスト](#), [入管](#), [強制摂食](#), [強制栄養](#), [強制治療](#), [仮放免](#)